

外機密

昭和16 二一六〇八 (暗) ウイシー 七月二十三日後發  
本 省 二十四日後發

豊田外務大臣

加藤大使

第四一〇號 大至急、館長符號扱  
往電第三九九號ニ副シ

電信寫

佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ對シ相當内容ヲ變更セル對案ヲ提出  
シ來リタルニ付貴電第二九八號ノ御趣旨ヲ取入レタル別電第四一  
一號我方議定書第二案ヲ基礎トシ面員ヲシテ佛係官ト協議セシメ  
タル處佛側ニ於テ特ニ固執シタル諸點別電第四一二號ノ如キニ付  
右ニ關シ何分ノ優折返シ御同電相成度シ

尙我方第二案作成ニ際シ考慮セル諸點竝ニ協議ノ際議論ニ出テタ  
ル諸點別電第四一四號ノ通りナリ御參考迄  
(了)

外機密

昭和16 二二五七五  
二一五七六

(略)

ヴィン 七月二十三日後發  
省 二十四日前着

豐田外務大臣  
第四一號(別號)館長符號扱

加藤大使

PROTOCOLE

ENTRE L'EMPIRE DU JAPON ET L'ETAT FRANÇAIS CONCERNANT LE MAINTIEN  
DE L'INTEGRITE TERRITORIALE EN LA DEFENSE EN COMMUN DE L'INDO-CHINE  
FRANÇAISE.

電信寫

陸軍  
海軍  
濟濟

Le Gouvernement Français et le Gouvernement Impérial du Japon,

Prenant en considération la situation internationale actuelle;

Reconnaissant que, dans le cas où la sécurité de l'Indo-Chine  
à estimer que la tranquillité générale  
Française serait menacée, le Japon serait fondé en Asie orientale et  
sa propre sécurité se trouveraient en danger;

Renouvelant à cette occasion les engagements pris, d'une part,  
par le Japon, concernant le respect de l'intégrité territoriale de  
l'Indo-Chine Française et de la souveraineté de la France sur cette  
Union, de l'autre, par la France, de ne contracter au sujet de l'Indo-  
Chine aucun accord au entente prévoyant une coopération politique,  
économique ou militaire de nature à l'opposer directement ou indirecte-

1.7.0.0-14 445

1.7.0.0-14 444

REEL No. A-1077

0248

アジア歴史資料センター

外機密

ment au Japon;

Sont convenus des dispositions suivantes:

1°) Les deux Gouvernements s'engagent à coopérer militairement pour la défense en commun de l'Indo-Chine française.

2°) Les mesures à prendre pour cette coopération feront l'objet d'arrangements spéciaux.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés par leurs Gouverne-

ments respectifs, ont signé le présent protocole qui entre en vigueur ce jour même, et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, en langues française.

et japonaise, à Vichy, le juillet 1941. Correspondant au jour  
du 7 ème mois de : 16 ème année de Syowa. (owari)

電信符

S 17.0.0-14

447

S 17.0.0-14

446

REEL No. A-1077

0249

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二一六〇二 (略) ヴイシー 七月二十三日發  
本 省 二十四日發着

豊田外務大臣 加藤大使

第四一二號ノ一(大至急、別電) 館長符號扱

同之

一 議定書前文中 *Souverainete de la France sur cette Union* トアルニ

對シ信條ハ南部信印ニ於ケル印國ノ政治的地位ハ復雜ニシテ主

權ノミナラス保護權モアルニ付 *Souverainete* ノ次ニ (*droit de*

*Souverainete, de protection et autres droits politiques*) ト附加シク

ント述ヘタルニ付我方ヨリ本項字句ハ五月六日附保護條約ノ字

句ヲ其ノ後使用シタルモノニ付説明ヲ附加スル要ナシト主張シ

タルモ信條ハ上述ノ説明ハ主權ノ意義ヲ明白ニスル爲必要ニ付

若シ右加入不適當ナラハ別ノ書翰ニ明白ニモランタラント申出テ

タリ(別電第四一五號御参照)(續ク)

電信寫

海軍 陸軍 濟濟

外機密

昭和16 二一六一五 (暗) ヴイシー 七月二十三日後發  
本省 二十四日後着

豐田外務大臣

加藤大使

第四一二號ノ二 大至急、館長符號扱

三又佛側ハ期限ノ點ヲ固執セルニ付我方ヨリ貴電第二九八號ノ趣  
旨ヲ挿入スルコトヲ提議シタルニ對シ佛側ハ單ニ協議條項ノミ  
ナラハ存在ノ理由ナシトテ同意セズ本文三トシテ左ノ項ノ挿入  
ヲ申出テタリ

les dispositions ci-dessus ne resteront en vigueur qu' autant qu' les  
circonstances ayant motivé leur adoption subsisteront.

佛側カ本項ニ「ネガテイープ」ノ形式ヲ採ルコトヲ望ムハ實質

電信寫

ニ於テ「アフエマテーブ」ト何等異ナル所ナキモ三ノ撤兵ニ關  
スル明記ナキ場合與論ニ幾分ノ安心ヲ與フル爲必要ナリト説明  
セリ

三、又佛側ハ前項ニ關聯シスル事態トナリタル場合ヲ豫想シ日本軍  
撤退條項挿入ヲ強ク要求シタルモ我方トシテハ右ハ統帥事項ニ  
屬スルヲ以テ議定書記入ハ絕對不可能ナル旨ヲ述ヘ押問答ノ末  
先方ヨリ一案トシテ往電第三九六號「ダurlan」密翰中撤兵ヲ  
要求スル項ニ對シ日本政府ニ於テ異議ナキ旨ノ受書發送方ヲ要  
求セリ

佛軍トシテハ日本軍ノ撤兵ニ對シ何等カノ形ニ於テ日本側ノ旨  
明ヲ得サレハ甚タ苦シキ立場ニ陥ルヲ以テ是非共右項挿入ヲ要  
望ヲシ居フル處形ニテ安結スルコト可然ト存セラルル(了)付前記受

秘

陸海  
又三

海軍  
又三

電信寫

昭和10 二一五六七

本 省

七月二十三日

前着

豊田外務大臣

第四一三號

加藤大使

二十三日「ハリソナル」紙ハ英國電慶政權「ドゴール」派ハ新々  
 ニ軍事協定ヲ締結セシカ右ハ佛印ノ占領ヲモ含ムヘントノ東京同  
 盟電ヲ大々的ニ掲載シタルカ解説トシテ新ル事態ニ對シ日本モ歐  
 視セサルヘク佛政府トシテハ右現實（脱）佛泰紛争ノ結果佛印ノ  
 軍需材料不足ノ現状ヲ考慮スルヲ要スヘク又休戰條約下ニ在ル佛  
 國トシテハ三國盟約國ニ對シテハ特別ノ態度ヲ執ルノ已ムナキヲ  
 忘ルヘカラスト諭セリ（了）

S 17.0.0-14 452

REEL No. A-1077

0252

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二一五九八 (暗) ヴイシー 七月二十三日後發  
本省 二十四日後着

豊田外務大臣 加藤大使

第四一四號 (大至急、別電) 館長符號披

一、我方議定書第二案前文 *tranquillité générale en Asie Orientale*  
以下ニ關シテハ佛案ニハ單ニ *risquerait d'être troublée* トアリ

日本ノ安全ニ關シ併記スル所ナカリシヲ以テ我方案ヲ主張セル  
處佛側ハ日本案ヲ再考スヘシト約シタリ

二、佛側ハ議定書本文「*defense en commun*」ヲ單ニ *defense* ト改メラレ  
タント述ヘタルモ (en commun) 附スルコトハ佛語トシテ音譯シ

テ面白カラス *coopérer militairement pour la défense* ニテ電  
ヲイ

電信寫

事協定ニ依ル共同防衛ヲ意味スト主張ス(我方トシテハ)共同  
防衛」ノ字句ニ重點ヲ置ク所以ヲ説明シ佛側ハ一應研究スヘシ  
ト述フ

三、本文ニ *coopération* ノ次ニ *militaire* ノ字句ヲ我方第二案ニ  
附加セザリシハ通過ノ點ヲ考慮シ得ニ削除セルモノニシテ更ニ

*arrangements spéciaux* ノ次ニ佛案ニハ *à conclure sur place entre*  
*les commandements français et japonais* トアリタルヲ以テ日本側ト

シテハ政府間ノ交換公文ヲ意味シ現地軍當局間ノ適合ハ更ニ右  
交換公文中ニ記載スヘキ趣ヲ傳ヘタル處佛側ハ之ニ同意セリ

(了)

佛側同意

外機密

手紙  
手紙

電信寫

昭和16 二一六〇九 (暗) ヴイシ 七月二十三日發  
本省 二十四日發着

豐田外務大臣

加藤大使

第四一五號 (大至急、別電) 館長符號扱

Dans les accords passés entre le Gouvernement français et le Gouver-  
nement japonais au sujet de l'Indochine, il est entendu que les termes  
"Souveraineté de la France" visent aussi bien les droits de protection  
et autres droits politiques exercés par la France que les droits de  
Souveraineté proprement-dits. (Owarl)

455

S 17.0.0-14

REEL No. A-1077



外務省

至急秘親展

昭和一六〇二五

電報  
次官 長 宛  
河内 澄 田 機 關

河内電第六〇〇號

貴電第八八七號（佛本國トノ交渉情況通報ノ件）拜承

二十二日午後七時（日本時間）先方ノ求メニ依リ總督ト其ノ官邸ニ於テ會見ス其ノ際總督ハ軍司令官、參謀長、空軍司令、總督府總務長官、同文武兩官房長ヲ列席セシメタル上「本國政府ハ佛印ノ共同防衛ト主權尊重トヲ條件トシ應諾ニ決シタル旨ノ訓電ニ接セリ佛印當局トシテハ此ノ際速カニ所要ノ細目交渉ニ入り度」ト述べタリ佛印側ハ本國應諾ト見テ本問題ヲ友好的ニ解決シ度空氣濃厚ナリ速カニ細目交渉ノ時機ヲ返電セラレ候

（終）

通電先 兩次長、次官、第二遣支、富、山縣

（主任班註）昨夜交渉開始ヲ命ゼラレタリ

REEL No. A-1077

0255

陸海海防省  
陸海防部  
第二課長

220  
1-1-1  
文書二課長

電	件名	宛	発
電信	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村
案	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村
外務省	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村
省	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村

27844 號  
昭和 16 年 7 月 23 日 午後 11 時 5 分 發

主管 南洋局長 主任 第二課長

電信課長 發電係

昭和 16 年 7 月 23 日 午後 11 時 5 分 發

128

〔日本標準規格 B5〕 S 1,7,0,0-14 459

陸海海防省  
陸海防部  
第二課長

220  
1-1-1  
文書二課長

電	件名	宛	発
電信	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村
案	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村
外務省	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村
省	佛印軍、一時的撤退、件	加藤大使	田村

27844 號  
昭和 16 年 7 月 23 日 午後 11 時 5 分 發

主管 南洋局長 主任 第二課長

電信課長 發電係

昭和 16 年 7 月 23 日 午後 11 時 5 分 發

128

〔日本標準規格 B5〕 S 1,7,0,0-14 458

REEL No. A-1077

0296

アジア歴史資料センター

本州伊及英  
 米ニ討シテハ  
 右聲明ノ趣旨  
 ヲ重クシテ内相  
 ノ意向ヲ了  
 リ合シテ  
 吉野進電ス

電  
 信  
 案  
 外  
 務  
 省

(一) 佛印、領土保全ノ主權、尊重カニ  
 非スルヲ望ム、件ニ  
 (二) 佛印、領土保全ノ主權、尊重カニ  
 非スルヲ望ム、件ニ  
 (三) 佛印軍、協力ノ範圍ハ防禦線  
 内ニ限ル事ヲ望ム、件ニ  
 (四) 佛印、補給ノ防禦手段供給方、  
 件ニ  
 (五) 佛印、補給ノ防禦手段供給方、  
 件ニ

(日本標準規格B5) S 1,7,0,0-14 460

電  
 信  
 案  
 外  
 務  
 省

(一) 佛印、領土保全ノ主權、尊重カニ  
 非スルヲ望ム、件ニ  
 (二) 佛印、領土保全ノ主權、尊重カニ  
 非スルヲ望ム、件ニ  
 (三) 佛印軍、協力ノ範圍ハ防禦線  
 内ニ限ル事ヲ望ム、件ニ  
 (四) 佛印、補給ノ防禦手段供給方、  
 件ニ  
 (五) 佛印、補給ノ防禦手段供給方、  
 件ニ

(日本標準規格B5) S 1,7,0,0-14 461

コソ  
ニ通  
ル  
事

(分類)

電 信 案	件 名 宛	電送第 27701 號	主管 南洋局長
		昭和 16 年 7 月 29 日 午後 5 時 0 分 發	主任 第二課長
外 務 省	記 録 件 名	第一九八 號	發 豊田大臣
		往電第一九七号ニ因シ	
廿二日午前 加藤大使が副總理向ニ大文交 換ヲ了セリ右ニ依リ本件外交交渉ハ終結セリ			

日本標準規格 B6) S 1.7.0.0-14 463

電信課長  
發電係

昭和十六年七月二十九日 起草

5

電 信 案	外 務 省
於ケル交渉ハ妥協せんヌト認メテ諸 般ノ互内手続ヲ進ムルト共ニ現地 大本營ヲ平ニ對シテハ細心ニ 開始方後河部ヲ命令ス 独、伊一様承アリ候	

日本標準規格 B6) S 1.7.0.0-14 462

逓信省 第三課長 佐西三郎  
 第三課長 佐西三郎  
 逓信局長 佐西三郎  
 逓信省 第三課長 佐西三郎  
 逓信省 第三課長 佐西三郎

昭和十七年七月二十三日 午後六時 分發  
 電報第 721 號  
 16 年 7 月 23 日 午後 6 時 分發

電	案	引揚勸告解除Pリテイ カシニ 干珠九 八明二十四日正午以後適當時期ニ出帆セシムル度	結電ヤ一六八号ニ付シ	件名宛 干珠九ノ出帆ニ付シ件 在函三頁 葉 田總領事	主管 逓信局長 佐西三郎 主任 第三課長 佐西三郎	記録件名 發 曲田大臣	昭和十七年七月二十三日 起筆
---	---	--	------------	-------------------------------------	---------------------------------	----------------	----------------

53

(分類)

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0-14 465

電	信	案	外	務	省	現地登田機因ニ於テ交渉方手配ヲ済ミナリ 以上貴省所為ノ考慮	之ト認めル 方 追駈ニ付シ 具體的條件ニ付テハ アリ
---	---	---	---	---	---	----------------------------------	-------------------------------

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0-14 464

(分類) ✓

電 信 案	外 務 省	(四頁電信電方 一六八号全之其傳貯電 ト)	暗 電送第 27722 27723 號 昭和 16 年 7 月 23 日 6 時 了 分 發	主管 在河内林總領事 主任 第二課長	電信課長 發電係
			件名 干球丸、少帆ニ因ル件 在河内林總領事 主任 第二課長	發 豊田大臣	
			台第一五八二號	記録件名	昭和十六年七月二十三日 起

(日本標準規格 B5) S 1,7,0,0-14 467

電 信 案	外 務 省	台北、河内ノ轉電セリ
-------------	-------------	------------

(日本標準規格 B5) S 1,7,0,0-14 466

REEL No. A-1077

0260

アジア歴史資料センター

一、  
此の如く...  
...  
...  
...  
...

南洋の長

極秘

佛印問題ニ關スル應酬資料トシテ野村大使宛訓電案

帝國ハ近ク(本月下旬ノ豫定)佛印南部ニ軍事基地ヲ設定シ同時ニ所要ノ陸海空兵力ヲ駐屯セシムルコトニ決シ「ヴィシー」政府ト商議シ得ル限リ共同防衛ヲ名目トシ平和的ニ進駐シ度希望ナルモ萬一佛印ニシテ應諾セザル場合ニ於テモ之ヲ強行スルコトニ廟議決定セラレタリ帝國ガ英米トノ摩擦ヲ豫期セラルルニ拘ラズ本件ヲ強行セントスル所以ノモノハ實ニ帝國自存自衛上ノ絶對的要求ヲ充サントスルモノニシテ之ガ根柢左ノ通り

一、英米ノ「ビルマ」ヲ通ズル要路、西南支那ニ於ケル英米空軍ト支那空軍ノ堤防、馬來、南印、比島、濠洲等ニ於ケル英米間ノ軍事合作等ノ

海軍

S 1.7.0.0-14 468

進展ハ英米ノ對日攻勢移轉ノ單ナル幻影ニ非ルヲ思ハシムルモノニシテニ米空軍ノ對支積極的進出ハ帝國ノ對支作戰上嚴重看視ヲ要スル處ニシテ帝國ガ此ノ際決ニ佛印全地域ニ軍事的地歩ヲ確立スルハ英米ト支那ヲ顧中シテ對支壓迫ヲ強化シ又英米萬一ノ對日攻勢ニ備フル爲ニモ極メテ緊要ナル戰略的自衛措置ニシテ帝國ノ自衛上之以上遷延ヲ許サズモノアルハ「シリア」ニ對スル英國最近ノ行動ニ鑑ミ特ニ痛感シアル次第ナリ

三、佛印及「タイ」ハ極メテ重要ナル帝國ノ必用物資(木、ゴム、錫等)供給地ニシテ英國ノ對日強硬南印ノ非友好的態度、比島ノ對日輸出制限等ノ結果愈々其ノ重要性ヲ倍加シ之等兩地域ノ物資ヲ確保ニ取得シ

海軍

S 1.7.0.0-14 469



得ルヤ否ヤハ實ニ帝國ノ死活問題タルニ至レリ  
然ルニ英國ノ對日妨害ハ最近愈々露骨トナリ特ニ「タイ」ニ對スル對  
日離反ヲ目標トスル懷柔工作、既ニ相當進展シ（米、ゴ、錫、對日  
供給牽制、反日分子ノ煽動等）タルノミナラズ進ンデ佛國內部ノ不安  
定ニ乘ジ華僑及「ド・ゴ」派ヲ使喚シテ日佛間ノ提携ヲ阻害セン  
トスル徵候スラ現ハルルニ至レド是レ帝國トシテ坐視シ得サル處ニシ  
テ右ノ如キ執拗ナル抗日運動ヲ封止スルニハ最早ヤ軍事的背景ヲ以テ  
スル以外ニ有効ナル方策ナキニ至レル次第ナリ  
三帝國今次ノ對佛措置ハ前條邊ノ如キ自存自衛上ノ緊要ナル必要ニ基  
クモノニシテ之ニ依リ佛印ノ領土ヲ奪取シ又ハ其ノ王權ヲ侵害セント

海軍

S 1.7.0.0-14

470

スル意圖毫モナキノミナラズ東亞ノ安定勢力タル帝國トシテハ歐洲戰  
争ノ極東波及ヲ防止スル見地ヨリ目下佛印ニ瀰醜シツツアル内部的不  
安定ヲ除去シ日佛印ノ正常ナル協力提携ヲ一層緊密ナラシメ以テ東亞  
ノ安定ニ寄與センコトヲ期スルモノナリ  
四本件ノ強行ハ英米ヲ刺戟スベキモ英米蘭等ノ對日軍事的並ニ經濟的壓  
迫ガ漸進シツツアル現状ニ於テハ自存自衛上當然ノ措置ニシテ其ノ動  
因ハ詮ジツムレバ英米ノ對日態度ニアリト謂ハザルヲ得ズ  
米國ニシテ眞ニ太平洋ノ靜謐ヲ顧念スルニ於テハ宜シク不脅威不侵略  
ノ原則ニ基キ帝國ノ立場ニ對シ冷靜客觀的ナル考察ヲ加ヘ以テ現ニ帝  
國ノ抱キツツアル不安感ノ一掃ニ對シ協力的態度ヲ取ルベキヲ期待ス

海軍

S 1.7.0.0-14

471

2

ルモノナリ

若シ夫レ英米ニシテ本件ヲ楔機トシテ對口壓迫ノ強化乃至實力的措置ニ出ヅルコトアリトセンカ英米ノ眞意ハ帝國ノ生存權ヲ否認スルニ在リテ其ノ從來ノ對日措置ハ帝國ノ屈服ヲ目標トスル一連ノ計畫的行爲タルヲ立證スルモノト斷ゼザルヲ得ザル次第ナリ

帝國ハ以上ノ如キ判斷ノ下ニ本措置ヲ強行スルコトトナレル次第ナルガ本件遂行ニ當リ英米トノ摩擦ヲ最小限度ニ止ムルコトニ我方方最善ノ努力ヲ盡スベキハ勿論ニシテ貴大使ニ於テハ前記帝國ノ意圖ヲ了承シ機宜我ガ方ノ眞意ヲ米側ニ了解セシムルニ努ムルト共ニ追而訓電スル處ニ依リ口米了解交渉ニ益々力ヲ盡シ米ヲシテ最悪ノ事態ニ突入セシメザル様

海軍

S 1.7.0.0-14 472

御努力アリ度

本件陸海軍武官ニモ極秘ノ含ミニテ内示アリ度。

海軍

S 1.7.0.0-14 473

REEL No. A-1077

0264

アジア歴史資料センター

主任	總務部	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課	第七課	第八課	第九課	第四部	陸軍省	軍務課	參謀官	武官府	海軍省	軍令部	外務省	他
主任	總務部	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課	第七課	第八課	第九課	第四部	陸軍省	軍務課	參謀官	武官府	海軍省	軍令部	外務省	他

通報先

電報

宛在

號

翻譯者

月日 午前午後

時時

分分 著發

陸軍省 參謀官 武官府 海軍省 軍令部 外務省  
 第一課 第二課 第三課 第四課 第五課 第六課 第七課 第八課 第九課  
 陸軍省 參謀官 武官府 海軍省 軍令部 外務省  
 第一課 第二課 第三課 第四課 第五課 第六課 第七課 第八課 第九課

主任	總務部	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課	第七課	第八課	第九課	第四部	陸軍省	軍務課	參謀官	武官府	海軍省	軍令部	外務省	他
主任	總務部	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課	第七課	第八課	第九課	第四部	陸軍省	軍務課	參謀官	武官府	海軍省	軍令部	外務省	他

通報先

電報

宛在

號

翻譯者

月日 午前午後

時時

分分 著發

陸軍省 參謀官 武官府 海軍省 軍令部 外務省  
 第一課 第二課 第三課 第四課 第五課 第六課 第七課 第八課 第九課  
 陸軍省 參謀官 武官府 海軍省 軍令部 外務省  
 第一課 第二課 第三課 第四課 第五課 第六課 第七課 第八課 第九課

參謀本部

S 17.0.0-14

475

S 17.0.0-14

474



昭和十六年七月二十三日午後發電  
在米 野村大使  
豊田外務大臣  
送印

昭和十六年七月二十三日午後發電  
在米 野村大使  
豊田外務大臣

第三九六號（大至急、外機密、館長符號）  
往電第三六八號ニ關シ  
「ヴィシー」政府ト商議ノ結果二十一日佛印ノ共同防衛ノ了解成  
立シ我方ハ來ル七月二十八日頃（右日附ハ貴大使限リノ御會迄）  
佛印南部ニ平和進駐スルコトナレリ  
就テハ追テ本大臣ノ指示スル時期ニ於テ貴大使ハ買頭往電ノ趣旨  
ニ依リ本件進駐ニ拘ハラヌ（帝國政府ハ佛印ノ領土主權ヲ飽ク迄

§ 1,7,0,0-14 477

尊重スルコト（佛印ノ内政ニ干渉セサルコト）貴大使ト國務長官  
トノ間ニ非公式ニ進行中ノ日米了解案ニ對スル我方ノ熱意ニハ毫  
モ變更ナク否之ヲ希望スルカ故ニ本通告ヲ爲ス所以等ヲ明カニシ  
本件平和進駐ニ關シ米國政府ニ可然御申入相成度

§ 1,7,0,0-14 478

REEL No. A-1077

外機密

極秘

總二七八二三  
番二七八三四

符(昭)  
和

十六年七月廿三日 午後九時四十

分發  
主  
管  
五

電信課作成

別記ノ向ハ

豊田外務大臣

佛印南滿總駐ニ伴フ宣傳方針ニ關スル件  
合第一五八七號 外機密

今次佛印總駐ニ關聯シ貴官ハ貴地方ノ實情ニ適合スル方法ヲ以テ  
軍部出先ト協調シ左記方針ニ基キ活潑ニ宣傳ヲ開始セラレ度(軍  
部トモ打合せスミ)

一、本方針ハ總駐ニ關スル帝國政府聲明發表ト共ニ之ヲ發動ス

ニ本宣傳ノ目標ハ佛印ニ於ケル行政及經濟機構ニ急激ナル衝動ヲ  
與ヘス且我方ノ電擊的施策ヲ容易ナラシメムカ爲佛印側ヲシテ

往電寫

積極的ニ我ニ協力スル機轉導シ又他ノ南方諸地域ニ泰國ノ對日  
理解及依頼心ヲ助長スルコトヲ主眼トス

又宣傳ノ主ナル對象ハ佛印及泰國ニ置クモ重要英米蘭ノ對日惡宣  
傳ハ今後益々激化スヘキヲ以テ本宣傳ハ全世界ヲ相手トシテ展  
開スヘキモノニシテ又「ビルマ」、馬來、印度、蘭印、滿洲等  
現地ニ於ケル宣傳カ不可能トナルヘキコトヲ覺悟シ佛印及泰  
リノ右諸地域ニ對スル宣傳ヲ強化シ殊ニ蘭印ニ對シテハ其ノ石  
油資源ノ確保又滿洲ニ對シテハ英國ヨリノ獨立心助長ノ爲謀略  
宣傳ヲ強化ス

同一般宣傳ノ内容ハ總駐ニ當リ設ケラルヘキ帝國政府聲明等ノ趣

S 17.0.0-14

480

S 17.0.0-14

479

REEL No. A-1077

旨ヲ基調トシ大東亞運命共同體ノ運命ヲ骨子トシテ大東亞防衛  
被壓迫民族解放英米金權主義打破反共主義等ヲ鼓吹スルモ特殊  
ノ事關ニ立廻ラサル限り土人ノ獨立蜂起ヲ促ス如キ報道宣傳ヲ  
戒シム

五 支那ニ對シテハ今次進駐ニ依リ帝國ノ企圖スル大東亞共榮圈態  
勢整ヒタルヲ以テ今後ハ益力ヲ擧ケテ支那事變處理ニ邁進スハ  
ヤコト等ヲ強固シテ汪政權ノ激勵ト重慶備ノ壓迫ニ資シ且準備  
及南洋土人ノ對日依存氣運ヲ促進ス

六 重慶及英米蘭等ノ敵性國家ニヨル帝國ノ國際不信又ハ日獨離間  
等ノ謀略宣傳ニ對シテハ彼等ノ對日攻勢包圍陣ヲ指摘糾弾シテ

大東亞自衛權ノ發動ヲ高調シソノ惡性宣傳ヲ封殺ス但シ日本カ  
今後引領ヤ南方強力進出又ハ帝國ト軍事の結合ヲ策シ得ルヤノ  
印象ヲ與ヘサル機留意ス

七 對米宣傳ニ於テハ我カ帝國ノ本義ニ基ク世界新秩序建設ノ理想  
ヲ強調シ米國ノ指導者ノ屢々主張スルソノ外交上ノ主義原則及  
ヒ其ノ政策ハ眞ノ世界平和建設ニハ貢獻シ得サルモノナルコト  
ヲ指摘シ又中南米諸國ニ於テハ北米ヨリノ離反促進ノ爲民族主  
義的宣傳ニ重點ヲ置ク

八 蘇聯ニ對シテハ帝國ノ關心カ南方ニアル如ク宣傳ス  
尙東京ニ於テ宣傳又ハ海外放送ニ使用シ得ル材料アラハ隨時電

報アリ度シ(弘)

本電宛先

一、支那、滿洲

北京、上海、南京、漢口、廣東、香港、新

二、南洋

泰、河内、馬尼刺(河内宛ニハ末尾ニ「西貢」ハ「バラ」ノ

上轉報アリ度シト附記ノコト)

三、米

○米宛ニハ末尾ニ「暹」ハ轉電アリ度暹駐發受ト同時ニ「バ

ラ」ノ上北米及中南米公館へ轉報アリ度ク尙紐育へハ至急極  
絡連絡アリ度シト附記ノコト)

四、歐洲

一、獨逸ニハ「伊、佛」ハ轉電アリ度シト附記ノコト)



外機密

極秘

往電寫

總番二七八一〇  
二七八一三  
和昭十六年七月廿三日  
午後九時〇分  
發送五

電信課作成

新嘉坡 輔見總領事  
パタヤ 石澤總領事

豊田外務大臣

佛印南部進駐ニ伴フ宣傳方針ニ關スル件  
合第一五八八號 外機密

貴官ハ今次佛印進駐ニ關聯シ軍出先トモ協同ノ上貴地方實情ニ適  
スル方法ヲ以テ左配方針ニ基キ宣傳ヲ開始セラレ度尙本件ハ軍備  
トモ打合濟ナリ

一、本方針ハ進駐ニ關スル帝國政府聲明發表ト同時ニ發動ス

ニ本宣傳ノ目的ハ佛印ニ於ケル經濟及行政機構ニ對シ過激ナルシ

「ワック」ヲ與ヘス同時ニ電報行動ヲ容易ナラシメンカ爲積極的  
ニ佛印側ヲ我ニ協力セシメ且他ノ南方諸地域就中「タイ」ノ對  
日依頼心ヲ助長スルニアリ

一、佛印及「タイ」國ヲ本宣傳ノ主要目標トスルモ英、米、重慶、蘭  
ノ對日惡宣傳ハ之ニ依リ愈々活躍化スヘキヲ以テ本宣傳ハ全世  
界ヲ對象トシテ展開スヘキモノトス又馬來、緬甸、印度、濠洲

蘭印等ニ於テハ現地宣傳不可能ナルヘキヲ覺悟シ右諸地方ニ對  
スル「タイ」、佛印ヨリノ宣傳ヲ強化シ特ニ濠洲ニ對シテハ英  
國ヨリノ獨立心助長、又蘭印ニ對シテハ石油資源ノ確保ノ爲謀

略宣傳ヲ強化セ

一、教宣傳ハ進駐ニ關スル政府聲明等ノ趣旨ヲ基調トシ運命共同

體ノ理念ヲ骨子トシテ東亞ノ防衛、英米金權主義打破、被壓迫  
民族解放論等ヲ鼓吹スヘキモ特殊ノ事態ニ立至ラサル限り土人  
ノ獨立蜂起ヲ促ス如キ宣傳乃至報道ヲ戒シム  
五支那ニ對シテハ今次進駐ニ依リ大東亞共榮圈態勢整ヒタルニ  
リ爾後支那事變處理ニ全力ヲ奉ケ邁進スヘキコト等ヲ強調以テ  
重慶側壓迫汪政權擧進ニ資シ且又南洋土人及華僑ノ對日依存氣  
運ヲ助長ス  
六英米蘭及重慶等ノ敵性國家ノナス日獨離間又ハ帝國ノ國際不信  
ニ關スル謀略宣傳ニ對シテハ大東亞自衛權ノ發動ヲ高調、彼等  
ノ對日包圍攻勢陣ヲ糾彈ソノ惡性宣傳ヲ假藉ナク散棄ス但シ今  
後引續キ本邦カ南方強力進出成ハ軍事的ニ「タイ」國トノ結合

ヲ策シ居ルヤノ印象ヲ與ヘサル様留意ス  
七米國ニ對シテハ我輩國ノ本義ニ基テ世界新秩序建設ノ理想ヲ強  
調シ米國ノ唱フル外交上ノ主義乃至政策カ眞ノ世界平和建設ニ  
ハ毫末モ貢獻シ得サルコトヲ指摘シ又中南米ニ對シテハ民族主  
義ヲ強調以テ北米ヨリノ離反促進ヲ策ス  
八蘇聯ニ對シテハ帝國政策ハ專ラ南方ヲ指向シ居ルカ如ク宣傳ス  
追而本件ニ關聯シ東京ヨリノ海外放送等ニ使用シ得ル材料アラハ  
適宜電報アリ度シ

外機密

電信寫

A 70090

昭和16 二一五四五 番 海内 七月二十三日午後  
本省 二十四日午前

豊田外務大臣

林總領事

第二六八號 (至急) 館長符號扱

二十三日午後八時澄田少將、總督閣ニ皇軍南部師団進駐ニ關スル

協定ノ調印ヲ見タリ

西貢へ轉電セリ

S 1,7.0.0-14 489

REEL No. A-1077

0273

アジア歴史資料センター

極秘

佛領印度支那ノ日佛共同防衛ニ關スル帝國政府ノ聲明ノ件

一、軍務局トシテノ意見左ノ如シ

二四日

二五日

二六日

二七日

二八日 (又ハ)

二九日

帝國政府聲明

上陸前英米通告

軍務課 昭一六七二三

陸軍

三〇日

(附 記)

(イ) 二官私案トシテ二五日獨伊通告ト共ニ泰ニ對シテモ爾後ノ施策ヲ  
顧慮シ通告スルヲ必要トスヘシ

(ロ) 帝國政府聲明案 (二官私案) 別紙ノ如シ

S 17.0.0-14 491

S 17.0.0-14 490

REEL No. A-1077

0274

アジア歴史資料センター

外機密

電信寫

陸軍  
海軍  
海軍

昭和16 二一六二七 (暗)

ヴィンシー 七月二十四日 前發  
本 廿四日 夜着

豊田外務大臣

加藤大使

第四一六號 (至急) 館長符號板

二十三日「カミント」佛外務省係官ト協議ノ際交換公文案ニ付テ  
ハ双方殆ト議論ナク別電第四一七號ヲ如キ我方公文ヲ手交セリ佛  
領公文ハ我方公文ノ直段ニ別電第四一八號ヲ附加スルコトトシ各  
政府ノ承認ヲ得ルコトトセリ何分ノ備折返シ御回電相成度シ

(了)

S 1.7.0.0-14 492

REEL No. A-1077

0275

アジア歴史資料センター

外機密

昭和 16 年 7 月 24 日 前發  
二一六二六 (暗)  
二一六三九  
本 省  
加藤大使

外務大臣  
第一七號 (至急) 別電) 館長符號扱

Vieny, le 17 juillet 1941

Monsieur le Vice-Président,

Me référant au protocole signé en date de ce jour entre nos deux  
Gouvernements, je prie Votre Excellence de bien vouloir me confirmer  
l'accord du Gouvernement français sur les propositions suivantes:  
1° Le Gouvernement français accorde aux Japon la faculté de prendre  
les mesures suivantes:

電信

陸軍  
海軍  
海軍

a) Envoi en Indochine méridionale du nombre de troupes, d'unités  
navales et de formations aériennes japonaises jugé nécessaires.

b) Utilisation, comme bases aériennes, des huit localités suivantes:  
Stemreep, Phnom-penh, Tonrane, Nhatrang, Bienhoa, Saigon, Soctrang  
et Kompoug-trach; comme bases navales, de Saigon et de la baie de  
Cemrenh. Les aménagements nécessaires y seront apportés par les forces  
japonaises.

c) Il sera accordé à ces forces la faculté de se loger; de faire

外機密

des manoeuvres et exercices; leur liberté de mouvements sera reconnue. Il leur sera également accordé des facilités particulières pour l'accomplissement de leur tâche. Ceci comprend la suppression des restrictions prévues par l'accord Nishihara-McTinn.

d) Le Gouvernement français fournira les devises nécessaires à ces forces japonaises selon les modalités à établir en commun. Pour l'année en cours, le montant de ces devises s'élèvera à 23.000.000 piastres indochinoises, soit environ 4.500.000 piastres indochinoises par mois, cette somme ne comprenant pas les devises à fournir aux forces japonaises au Tonkin, prévues par les accords antérieurs.

Le Gouvernement japonais est disposé à payer les devises sus-visées, au choix du Gouvernement français, soit en yens transférables, soit en dollars américains, soit en or.

2° Le Gouvernement français donnera son accord au dispositif général d'entrée de ces forces et prendra toutes les mesures utiles pour éviter la possibilité d'un conflit fortuit avec les forces indochinoises.

3°- Les dispositions de détail concernant les mouvements des forces japonaises seront établies d'accord entre les autorités militaires japonaises et françaises sur place.

Je saisis cette occasion de renouveler à Votre Excellence Monsieur le Vice-Président les assurances de ma très haute considération.

機密

外機密

昭和16 二一六三二 (暗) ヴイシー 七月二十四日午後

豊田外務大臣 加藤大使

第四一八號 (至急) 館長符號扱

Je réferant au protocole signé en date de ce jour entre nos deux gouvernements, j'ai l'honneur de confirmer à Votre Excellence l'accord du Gouvernement Français sur les propositions contenues dans la lettre qu'Elle a bien voulu adresser en date de ce jour et qui se trouvent reproduites ci-après. (以下敍行餘白)  
Veuillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma très haute considération.

電信寫

海軍 軍濟

外機密

昭和16 二一六〇六 (暗) ヴイシー 七月二十四日午後

豊田外務大臣 加藤大使

第四一九號 館長符號扱

往電第四一二號ノ三ニ關シ

我方受信試案別電第四二〇號ノ通り(了)

電信寫

S 17.0.0-14 498

S 17.0.0-14 497





外機密

昭和18 二一六二八 (一)

陸田外務大臣

ウイシー 七月二十四日

第二〇號 (別電) 直長待田

加藤大臣

Consieur le Vice-President,

海軍 海軍 電信

Une note du Ministre des Affaires Etrangeres du Japon est parvenue au Japon le 21 juillet 1941 relative au projet de cooperation militaire Franco-Japonaise en Indochine. Votre Excellence a tenu a indiquer dans quel esprit le Gouvernement Francais considere cet accord. Il s'agit de l'application de nos principes fondamentaux de politique internationale pour la sauvegarde du territoire Indochinois. Il s'agit de l'application de nos principes fondamentaux de politique internationale pour la sauvegarde du territoire Indochinois.

Il s'agit de l'application de nos principes fondamentaux de politique internationale pour la sauvegarde du territoire Indochinois.

Il s'agit de l'application de nos principes fondamentaux de politique internationale pour la sauvegarde du territoire Indochinois.

S 17,0.0-14

500

S 17,0.0-14

499

REEL No. A-1077

0279

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二一六二三 (増) ヴイシー 七月二十四日發  
本 省 二十四日夜着

豊田外務大臣

加藤大使

第四二一號 (至急) 館長符號扱

引  
第四二一號 (至急) 館長符號扱  
往電第四一三號ノ如キ記事 (右ハ巴里發刊ノモノナリ) 掲載シ始  
メタルコトニモアリ議定書縮結前適當ノ時期ニ發表方可然シト存  
セラルル處右御決定ノ上ハ當方ニ於ケル準備ノ都合モアリ其ノ日  
時折返シ御回報請フ(了)

電信寫

S 1.7.0.0-14 501

外機密

昭和16 二一六九五 (増) ヴイシー 七月二十四日發  
本 省 二十五日前着

豊田外務大臣

加藤大使

第四二二號 館長符號扱

往電第四一四號ニ關シ

二十三日協議ノ際佛側ハ吾年八月三十日協定ニ言及シ今次日本軍  
進駐ノ結果生スルコトアルヘキ損害ニ對シテモ同協定末段ノ趣旨  
ヲ議定書若ハ交換公文中ニ記載アリタシト申出テタルモ我方トシ  
テハ今次協定ハ共同防衛ニシテ佛側モ責任ヲ分擔シ居ルモノト認  
メラルルニ付正式ニ公文書中ニ記載スルハ適當ナラス現地軍當局  
間ノ話合ニ任スコト然ルヘシト脱示シ置タル趣ナリ(了)

電信寫

S 1.7.0.0-14 502

外機密

海軍  
濟州

電信寫

昭和16 二一六九三 (暗) ヴイシー 七月二十四日後發  
本省 二十五日前着

豐田外務大臣

加藤大使

第四二三號(至急) 館長符號扱

貴電第三〇四號ノ(三)ニ關シ(對佛申入ノ件)

既ニ佛側ト話合濟ニテ且往電第四一號ノ妥協案ハ之ヲ前文ニ照  
ヒ置キタル次第ニ付其ノ儘御承認請フ

S 17.0.0-14 503

外機密

A2009-2  
[Handwritten signature]

電信寫

昭和16 二一六七二 (暗) 河内 七月二十四日後發  
本省 二十五日前着

豐田外務大臣

林總領事

第二七一號(館長符號扱)

往電第二六八號ニ關シ

協定日本譯二十五日發日「タイ」機ニテ空送ス(了)

S 17.0.0-14 504

外機密

昭和18 二一八〇七 (暗)

ヴィンシー 七月二十五日夜着  
本省

加藤大使

豊田外務大臣

第四二四號 館長符號扱

貴電第三〇〇號ニ關シ

議定審交換公文日本文成文後電報ノ折當方ニ於テ日本文本書作成

ニ際シ心得置クヘキ點爲念詳細御指示相成度シ

尙當館邦文「タイプライター」ハ二週間前巴里事務所ヨリ發送済

ナルモ未タ接到セサルヲ以テ或ハ本書ハ肉筆ニテ記スルコトナ

ルヘキニ付右豫メ御承知置請フ(了)

電信寫

外機密

昭和18 二一八〇五 (暗)

ヴィンシー 七月二十四日夜着  
本省

加藤大使

豊田外務大臣

第四二五號 館長符號扱

貴電第三〇四號ノ(二)ニ關シ

本件公表ノ期日ハ既ニ佛側ニモ週報済ナル處貴方ニ於ケル聲明ハ

二十六日正午(日本時間)ニ御確定相成度シ佛側發表文ハ議定書

案ニ現ハレ居ル内容ニ佛國輿論ニ對スル適當ナル説明ヲ加ヘタル

程度ノモノヲ認ムルコトト致度シ(了)

電信寫

S 17.0.0-14 505

S 17.0.0-14 505

REEL No. A-1077

0282

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二一八〇八 (暗) ヴイシー 七月二十四日後發  
本 省 二十五日後着

豐田外務大臣 加藤大使

第四二六號 館長符號扱

貴電第三〇五號ニ關シ

一、佛側ニ就キ取調ヘタル處「スポークスマン」ハ佛印問題ニ關シ  
日佛間ニ妥協成立ノ報道ハ眞實ナリヤトノ質問ニ對シ「何等言  
明スル限ニ非ス」ト答ヘタル趣ニテ恐ラク新聞記者ニ於テ想像  
記事ヲ打電セルモノト認メラル

電信寫

二、尤モ原田ラシテ「ロシア」次官ニ會見セシメタル際「ロ」ハ佛  
側ニシテハ數日來ノ英米側ノ猛烈ナル宣傳ニ對應シ輿論ヲ準備

スル必要アリ「佛國ハ極東ニ於テハ無力ニ付東亞ノ盟主タル日  
本ノ力ニ依リ佛印ノ安全ヲ保持スルハ當然ナリ」トノ趣旨ニテ  
進ンテ日本側トノ協力ノ必要ヲ強調シ度ク二十四日ヨリ新聞指  
導ヲ始メ度キ考ナリト語リタル趣ナリ(了)



外機密

昭和16 二一七九七 (暗) 七月二十四日夜着  
本 省 加藤大使

豊田外務大臣

第四二七號 (大至急) 電長符號發

二十四日通員ヲシテ重ネテ佛側ニ議定警察審議ノ結果ヲ尋ネシメタル處佛側ハ左ノ點ヲ除キ往電第四一號我方第二案ヲ全部受諾スル用意アルコトヲ内話セリ電文ニ付テハ双方係官ニ於テ充分審議ヲ重ネタル次第ニテ此ノ程度佛側ノ希望ヲ容ルルコトハ蓋支ナカルヘク左スレハ電文ハ確定スル次第ニ付成ル可ク右御承認ヲ得度ク何分ノ儀至急御同電相成度シ

電信寫

一 前文中 reconnaissance と que の間 に en consequence ヲ挿入ノコト

三 本文第三項ハ往電第四一二號ノ二ノ佛案ヲ照会ス但シ往電第四一九號我方受書送付ヲ得ハ本文中ニ撤兵事項ヲ挿入スルコトヲ同意セス (了)

6 17.0.0-14 510

6 17.0.0-14 509

REEL No. A-1077

0284

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二一六七一 暗 河内 七月二十四日後發  
本省 二十五日前着

豊田外務大臣 林總領事

仲部

第二七一號 (館長符號扱)  
往電第二六八號ニ關シ

協定日本譯二十五日發日「タイ」機ニテ空送ス(了)

あき 211  
7/24  
タイ機ニテ空送ス

電信寫

特扱

昭和16 二一七二一 略 華府 七月二十四日後發 弘、南、米  
本省 二十五日後着

豊田外務大臣 野村大使

第五六三號 (大臣急)

佛印總駐ニ對スル「ウエルヌ」國務次官代理聲明英文特情ニテ電

報濟(了)

外務省

電信寫

S 1.7.0.0-14 512

S 1.7.0.0-14 511

REEL No. A-1077

0285

アジア歴史資料センター

No. 1741  
17

（暗）  
本 華 省  
月 二十四日午後  
月 二十五日午前  
時 時  
分 分  
考 備

豊田外務大臣

野村大使

第五六八號大至急（極秘）館長符號

形勢急迫ヲ痛感シ昨二十三日作戦部長  
ト二人限り晝食ヲ為シタル際大統領ニ  
會見方取次ヲ依頼シ今日午後五時  
内密ニ會見シ累次御訓令ノ趣旨ヲ  
体シ佛印進駐ノ我國トシテ經濟上及  
同地域ノ安定上ニハムヲ得サル所以ト領土  
保全 主權ノ尊重等ニ付テモ 述ハ

（甲）

S 17.0.0-14 513

且現内閣モ日米了解ニ熱心ナル旨ヲ  
述ヘ太平洋平和維持ノ為大乗的ニ  
政治的考慮ヲ促シタリ 大統領ハ  
從來輿論ハ日本ニ対シ石油ヲ禁輸  
スヘシト強ク主張セシニ拘ラス自分ハ  
之ヲ太平洋平和維持ノ為ニ必要  
ナリト言フテ説得シ来リシカ今ヤ  
其ノ論拠ヲ矢フニ至リト述ヘテ  
石油ノ禁輸アルヘキヲ反カシ又佛  
印進駐ニ対シテハ今廿四日國務省

乙

S 17.0.0-14 514

REEL No. A-1077

0286

アジア歴史資料センター



発表ノ要旨ヲ述ヘテ米政府ノ見解  
 ヲ明カニシ今ハ既ニ時機オクレタルノ  
 感アリ事前國務省ト打合セテ為セ  
 シニアラサルカト前日且シ若シ天レ佛  
 印ヨリ撤兵セラレ各國其ノ中立ニ瑞  
 西ノ如クヲ保障シ各國自由ニ公平  
 ニ佛印ノ物資ヲ入手ニ得ルカ如キ方  
 法アリトセハ自分ハ盡クヲ惜マスト語  
 リ且日本ノ物資入手ニハ自分モ極メテ  
 同情ヲ持ツ旨語リタルカ要スルニ何等カ

(2 號)

経済的壓迫迄ク実行セラルル様  
 印象ヲ受ケタリ  
 同席ニハ「ウエルズ」次官ノ外作戦部  
 長モ招レテ列席シタリ (ア)

(2 號)

外機密

昭和16 五五二四一

(暗)

南京 七月二十五日  
本省 二十五日 夜着

豊田外務大臣

日高代理大使

第五一六號(極秘、館長符號扱)

貴電合第一五九三號ニ關シ(南部佛印進駐ニ關スル件)

二十五日夕刻日高公使汪主席ヲ往訪シ本件ヲ内報スルト共ニ應酬

資料ニ基キ然ルヘク説明シタルニ主席ハ其ノ好意ヲ謝スルト共ニ

國民政府側ニ於テモ最近佛領印度支那當局ノ「アラン」追放事件

及帝國ノ動向等ニ鑑ミ南洋方面ニ關スル宣傳方針トシテ英米策動

ノ結果東亞共榮圈ニ暗影ヲ投シ居ル點ヲ明カニスル事然ルヘキ旨

昨日宣傳部ニ指示シ置キタルカ偶然日本ノ執レル措置ヲ裏書スル

ニ關シナリタルハ欣快ナリト語リ尙本件ニ關聯シ從來嘉ノ中央軍

ニ牽制セラレ和平運動ノ宿望ヲ達シ得サリシ雲南ニ對シ何等工作

ナキヤヲ互ニ研究シタシト述ヘタリ

追テ本件ニ對スル宣傳方針ニ付テモ貴電ノ趣旨ニ依リ大體説明ヲ

與フルト共ニ詳細ハ聲明發表後隨時宣傳部ト打合スヘキ旨約セリ

(了)

電信寫

A7009-2

S 1.7.0.0-14

518

S 1.7.0.0-14

517

REEL No. A-1077

0288

アジア歴史資料センター

外務省

至急秘

電報

七二二一三〇〇發  
一九三五著

昭和一六七二

昭和  
16.7.25  
和

河内電第六〇一號

河内 澄田 機 關

訓令ニ基キ小官本二十三日午前七時(佛印時間)ヨリ現地細目交渉ヲ開始セリ

原則的事項ハ速カニ妥結シ得ル見込

通電先 兩總長、第二遣支艦隊、富集團、山形  
(東京以外ハ參考迄)

(終)

S111

S 17.0.0-14 519

海

秘電報

昭和一六七二四

澄田 機 關 長

陸軍

細目交渉ハ貴指示ノ如ク同意セシメタルモ佛印側トシテハ河内ト西貢トノ連絡ノ爲一週間往復一回「エアランス」ノ西貢飛行場利用ヲ許可セラレ度要望切ナリ

右飛行ノ爲ニハ西貢飛行場ノ外使用シ得サル實情ニアルヲ以テ右目的ノ如ク進駐後成ルヘク速ニ同飛行場ノ一部ヲ許可セラレ度至急指示アリ度

本件差支ナク其細部ニ關シテハ現地軍ト連絡セラレ度旨返電シアリ

S 17.0.0-14 520

大臣

次官

南洋局長

主任 第二課長

昭和十六年七月二十四日起草

記帳済 24 86

S 1.7.0.0-14 522

(分頁)

電送第 27973 號

16. 7. 24 日 午後 0 時 0 分發

宛 在 傳 加 藤 大 使

名 皇 軍 傳 印 南 部 進 駐 之

件 南 部 進 駐 之

至 急 第三〇八 號 極 秘 (館長符号扱)

在河内林總領事發本大臣宛電報第二六八号

轉電不

電信課長

主任 第二課長

昭和十六年七月二十四日起草

記帳済

S 1.7.0.0-14 522

大臣

次官

南洋局長

主任 第二課長

昭和十六年七月二十四日起草

記帳済 24 86

S 1.7.0.0-14 521

(分頁)

電送第 27950 號

16. 7. 24 日 午後 8 時 0 分發

宛 在 傳 加 藤 大 使

名 加 藤 大 使 基 館 員 へ 謝 電

件 1 件

極 秘 第三〇六 號 (館長符号扱)

今 次 交 渉 妥 結 當 貴 使 並 貴 館 員 多 大 一 衛 畫 カ ヲ 謝 ス

電信課長

主任 第二課長

昭和十六年七月二十四日起草

記帳済

S 1.7.0.0-14 521

REEL No. A-1077

0290

外機密

昭和19年七月二十三日午後  
本省 二十四日午前

豊田外務大臣

林銑儀

第二十八號（華字）局長符號紙

二十三日午後八時澄田少將、總督間ニ皇軍南部佛印駐ニ關スル  
協定ノ調印ヲ見タリ

西貢へ轉電セリ

知用

電信寫

外機密

昭和十六年七月廿四日午後六時四十分發  
符號紙  
主米管

極秘

在米 野村大使

豊田外務大臣

附部佛印平和進駐ニ關スル帝國聲明ノ件

第四〇一號 外機密 局長符號紙

往電第三九六號ニ關シ

帝國政府ハ東京時間二十六日正午（貴地時間二十五日午後十時）  
ヲ期シ別電第四〇二號ノ聲明ヲ發表スハク在京米國大使ニ對シテ  
ハ大體同日午前九時内示説明ノ豫定ナルニ付テハ貴大使ニ於テモ  
廿五日午後六時米國領ニ可然御内報相成度

往電寫

6 1,7.0.0-14 524

6 1,7.0.0-14 523

電 信 案

外 務 省

本電別電ト共ニ英ハ轉電アリシ  
 別電ト共ニ蘇ニ轉電セリ

經濟概要別電第四〇号ノ通りナリ

日本時間)右ノ内ニ表行ハル・ト・ナレリ  
 於テ成立セリ本件交渉ニハ結セルヲ以テ二十六日正午  
 於テ全面的ニ受諾シ細目ニ関スル協定二十三日河内ニ

日本標準規格B5) S 17.0.0-14 526

電 信 案

外 務 省

電 信 課 長

發 電 係

記帳簿 24 100

昭和十六年七月二十三日 起算

主 管 官 長 津 野 村 大 使

主 任 官 長 第二課長

電 送 第 279 号

昭和十六年七月二十四日 午後七時〇〇分發

宛 名 野村大使

在 米 皇軍ノ併叩南部進駐ニ

件 附スル件

極 秘 第四〇三

館長符号扱)

往電第三六八號ニ関シ

去ル十四日「ヴィー」政府ニ対シ要領別電ヲ發シ  
 之ヲ爲シ二十日再度申入ヲ行ヒタル處佛側ハ我方要

電 送 第 279 号

昭和十六年七月二十四日 午後七時〇〇分發

宛 名 野村大使

在 米 皇軍ノ併叩南部進駐ニ

件 附スル件

極 秘 第四〇三

館長符号扱)

往電第三六八號ニ関シ

去ル十四日「ヴィー」政府ニ対シ要領別電ヲ發シ  
 之ヲ爲シ二十日再度申入ヲ行ヒタル處佛側ハ我方要

日本標準規格B5) S 17.0.0-14 525

電 信 案

トナリ副總理ニ面會シ前記申入ニ関スル帝國政府ノ要本ヲ

ヨリノ「メッセーヂ」ヲ傳達シ同様申入ヲ行ヒ更ニ十七日夕

次ニ加藤大使十五日「ペタ」總理ニ面會シ近衛總理

ニ報告シ慎重審議ノ上出来得ル限リ速ニ回答スヘシト答

處副總理ハ日本ノ要本ハ重大ナルヲ以テ「ペタ」總理

提示シ十九日迄ニ佛政府ノ回答ヲ得度キ旨申入レリト

日本標準規格 B6  
S 1.7.0.0-14 528

大 官

取 扱

米 一 部

(分類)

別 電

加藤大使ハ十四日「外相」副總理ニ面會シ佛印ノ共同

防衛並ニ軍事的協力ニ関スル帝國政府ノ要本ヲ

電 信 案

外 務 省

主管 第二課長

主任 第二課長

昭和十六年七月二十三日

電信課長

發電係

記 録 簿

24 102

日本標準規格 B6  
S 1.7.0.0-14 527

意傳不佛側ノ承諾ヲ要求セリ

廿九日「ダート」副總理ノホメニ依リ加藤大使面會

セル處佛國政府ノ回答トシテ日本側今回ノ提案ハ其ノ

性質上休戰條約ノ相手國名独伊ト豫メ協議スルニ非

レハ併限リテハ何事モ決定シ難ク日本側ノ意ヲ慮ル

事情ハ先外承認シ居ルヲ以テ在巴軍「ガ」  
「マ」  
「メ」  
「シ」  
「テ」  
「大」

車ヲ「マ」  
「ア」  
「ベ」  
「ツ」  
「シ」  
「独大使ニ協議聯絡甚々數日中ニ決

電信案

外務省

日本標準規格 B6

S 1.7.0.0-14

529

三  
定的回答ヲ為シ得ヘト述ヘ多

右回答ハ独伊トノ休戰條約ヲ口實トシテ遷延ヲ

策セトスルモノナリト認メラレタルヲ以テ二十日加藤大使再ヒ

「ダート」副總理ニ面會シ我方要求ヲ全面的ニ受諾

スル様張禮申入右會見後更ニ「フ」  
「イ」  
「カ」  
「シ」  
「ト」

行政大臣ニ會見セル結果佛政府ハ日本ノ要求ヲ

承諾ス意郷南アルト判明シ二十日正午「ダ」  
「エ」  
「ト」  
「副總

電信案

外務省

日本標準規格 B6

S 1.7.0.0-14

530



正式回答ヲ為セリ

四

右正式回答要旨

(一)佛國政府ハ日本國政府ノ  
要求ヲ承諾セズト

(二)佛國政府ハ日本國政府ノ協  
力ノ下ニ印度支那領土ノ防衛ヲ確保ス

ト但シ攻  
撃的作戰ニ參加セサルニト

(三)日本軍ハ駐屯ラ必要  
トスル事態解消次第撤退ヲ行フヘキニト

(四)日本國  
政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル

電信案

外務省

日本標準規格 B6  
S 1.7.0.0-14 531

佛國ノ主權尊重ニ關シ聲明ヲ公表スルニト而シテ右聲明  
ハ速ニ為サル必要アルニト

五

右回答手交ノ際「ダ」ハ回答中ニ日本ノ要求ニ服  
ストノ文字ヲ用ヒタルハ「レリア」ニテハ英軍ニ抵抗シテ

佛印ニテハ日本ニ進ニテ手ヲ延シ多ト内外ヨリ非難サル  
トテ避クル為ニテ又更ニ重要ナル莫ハ日本側ニ於テ

現在佛印ニ在ル佛印軍ヲ追立テ佛軍カ現ニ使

電信案

外務省

日本標準規格 B6  
S 1.7.0.0-14 532

REEL No. A-1077

0295

アジア歴史資料センター

用シ居ル諸設備ヲ要ホシ又ハ艦船ノ立退キ等ヲ要ホ  
 セラレサルコトナリ若シ現在駐屯ノ地莫ヨリ佛軍立退キヲ  
 命スルトハ彼等ヲ激憤セシムルニ至ルヘク其ノ結果如何ナル  
 不祥事件發生スルヤモ計リ難キニ付此ノ莫特ニ重要ナル  
 へキ旨述ヘタリ

右圖答ヲ以テ全面的受諾ト認め加藤大使ハ豫メ  
 用意シ置タル我方提案ヲ手交シ佛側了承ノ回答

電信案

外務省

ヲ送リ度ヒト述ヘ又我方ハ本件合意ヲ正式ノ外交文  
 書ト爲シ置キ度キ所存ナリトテ議定書案及交換公  
 文案ヲ手交セリ右書翰ノ交換ハ二十一日完了セルカ  
 其ノ末段ニ於テ二十日正午ノ佛側回答文ヲ附加セル外  
 (一)佛印軍ノ補足的防禦手段ニ關スル日本政府ノ支援  
 (二)佛印軍ニ依リ現存軍事施設ノ引續キ使用 (三)佛  
 印ノ領土保全並ニ主權尊重ニ關スル帝國政府ノ可及的速カク

電信案

外務省

27944

(分類)

電 信 案	外 務 省	当地軍代表 佛印共同防衛ニ関スル帝國政府意見ハ二十六月正午 至急令一五九七號 (外務省)	暗 電送第 27940 號 昭和十一年七月二十四日 午後三時五分發	主管 南洋局長 主任 第二課長 昭和十一年七月二十四日起草
		件名 日佛共同防衛	宛 英、佛、印	發 典田大佐

24 107

日本標準規格 B5) S 1.7.0.0-14 535

電 信 案	外 務 省	佛印現地ニ於テル細目交渉ニ入 河内ニテテ田中將、トクシシ總督等ニ三十三日 協定致シテ 我軍ハ二十八日退散、 豫定テ貴便限ル旨迄
-------------	-------------	---

日本標準規格 B5) S 1.7.0.0-14 535

REEL No. A-1077

0299

アジア歴史資料センター

極秘

帝國政府聲明(案)

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ始メ累次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニヨリ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極就中佛領印度支那ノ領土保全並ニ佛領印度支那聯邦ニ關スル「フランク」國主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル國際取極ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ今後益々日佛友好關係ノ増進ニ努メ以テ兩國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス

外務省

8 1.7.0.0-14 537

外機密

電信寫

A 700926

昭和16年 二月八日 第一號  
新嘉坡 二月二十日 倫敦  
二月十六日 倫敦  
印度外務大臣  
領事館 倫敦

第三六七號ニ照シ、佛領、前長官(按)當地方政府ハ領土防衛的ナル、ミナラズ之トテ未完成ニシテ幾多ノ困難ヲ有ス而モ佛印問題ニ關シ新聞ハ空言傳ヲ行ヒ居ルハ一統情勢ハ嚴密ニシテ實力防衛、共同防衛ノ使命遂行方ニ對シテ行方ニ對シテ日英協力ニ對シテ、自衛防衛ハ、誠ニテ少シク對峙セ

8 1.7.0.0-14 538